MITSUBISHI

0808874HH0501

デルタキャッチ形レンジフードファン
ブラックタイプ
形　名
V-50RH$_2$、V-507RH$_2$、V-509RH$_2$
シルバーメタリックタイプ
形　名
V-507RH$_2$-S

取付工事説明書

販売店・工事店さま用

取付工事を始める前に、この取付工事説明書をよくお読みください。
取付工事は販売店・工事店さまが実施してください。

■本製品は住宅の台所用です。業務用途では使用できません。
■本製品の施工にあたっては、地域により防災上での制限（内装材の制限、可燃物との距離の制限、ジャバラの使用など）がありますので、詳細は行政官庁または、消防署にお問い合わせください。
■接続ダクトはφ 150 の鋼板管・スパイラルダクトのいずれかをご用意ください。

■別冊の「取扱説明書」はお客さま用です。必ずお渡しください。

安全のために必ず守ること

⚠警告 誤った取扱いをしたときに死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの

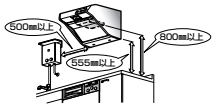
水かけ禁止	**直接水のかかる場所や湿気の多い場所には取付けない** 感電および故障の原因。	指示に従う	**交流100Vを使用する** 直流や交流200 Vを使用すると火災・感電の原因。
分解禁止	**改造や必要以上の分解はしない** 火災・感電・けがの原因。	指示に従う	**製品金属部（金属製ダクト）がメタルラス張り、ワイヤラス張り、ステンレス板などの金属と電気的に接続しないように取付ける** 接続されていると漏電した場合火災の原因。
プラグを抜く	**ランプを点検する際は必ず電源プラグをコンセントから抜くか、分電盤のブレーカを切る** 通電状態では感電の原因。	アース確認	**アースを確実に取付ける** 故障や漏電した場合感電の原因。

⚠注意 誤った取扱いをしたときに傷害または家屋・家財などの損害に結びつくもの

指示に従う	**指定のランプを使用する** 間違ったランプを使用するとランプ周辺が高温になり、やけどの原因。	指示に従う	**部品の取付けは確実に行う** 落下によりけがの原因。
指示に従う	**本体の取付けは十分強度のあるところを選んで確実に行う** 落下によりけがの原因。	指示に従う	**配線工事は電気設備の技術基準や内線規程に従って安全・確実に行う** 接続不良や誤った配線工事は感電や火災の原因。
指示に従う	**取付けの際は手袋を着用する** 着用しないとけがをの原因。	プラグを抜く	**取付け後長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜くか、分電盤のブレーカを切る** 絶縁劣化による感電や漏電火災の原因。

取付け前のお願い

下図の寸法を守る
本体の下端からガスレンジまたは IH クッキングヒーターまでは 555 ㎜以上必要です
（火災予防条例では、フィルター下面から加熱面まで 800 ㎜以上必要です。）

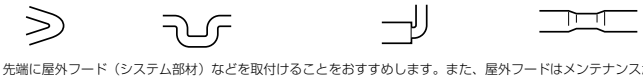


（モータ故障や排気ガスによる塗装面のサビ発生の原因となります。）

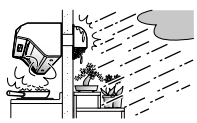
直接コンクリートなど、傷のつきやすいものの上には置かない

ダクト工事
- ●排気ダクトは雨水の浸入を防ぐため屋外に向けて 1/100 以上の下りこう配をつける。
- ●排気ダクトは直接屋外に通ずるものとし、他の用途のダクトと接続しない。
- ●次のようなダクト工事はしない。（風量低下や異常音発生の原因になります）

●極端な曲げ　●多数の曲げ　●吐出口のすぐそばでの曲げ　●しぼり



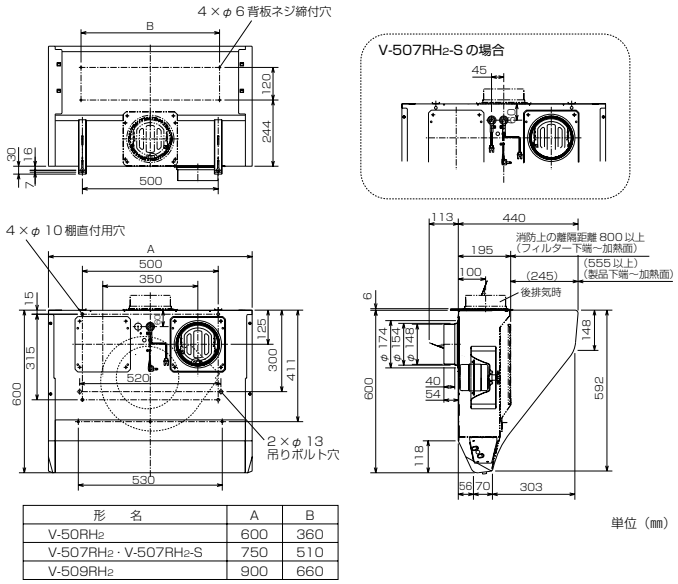
- ●先端に屋外フード（システム部材）などを取付けることをおすすめします。また、屋外フードはメンテナンスができる位置に取付けてください。
- ●システム部材の選定には次の点に注意してください。
  - • 圧損の少ないものを使用する。（製品性能が得られないことがあります）
  - • 水切板付のものを使用する。（壁汚れを防止します）



排気ダクトの先端には条件に合ったシステム部材が用意してあります、ご利用ください。
- ●鳥などの侵入防止にベントキャップ
- ●雨水の浸入防止に深形フード
- ●吹き上げが強いところには耐外風高性能フードを取付けてください。

- ●室内には専用の給気口を設けるようにしてください。
（扉の開閉が困難になったり、製品性能が得られないことがあります）
- ●風の影響を受けやすいため、空調機や給気口からの風が直接あたらないようにしてください。
（油煙等の漏れの原因となります）

外形寸法図



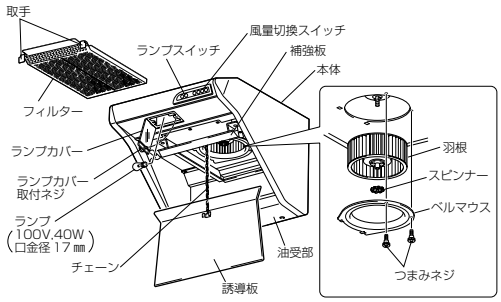
形　名	A	B
V-50RH$_2$	600	360
V-507RH$_2$・V-507RH$_2$-S	750	510
V-509RH$_2$	900	660

単位（㎜）

付属部品

●下記の付属部品があります。

各部のなまえ

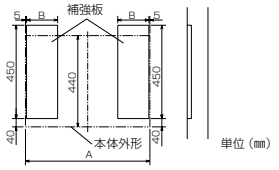


※図は V-50RH$_2$ を示します。

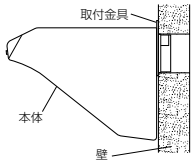
取付方法

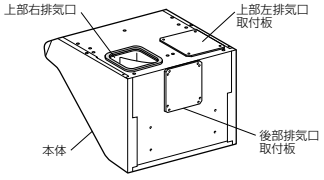
本体の取付けには、壁取付け、吊り戸棚下面取付けおよび吊りボルトによる取付けがあります。
この製品は排気方向を上部（左、右）および後部の３か所から自由に選択できます。

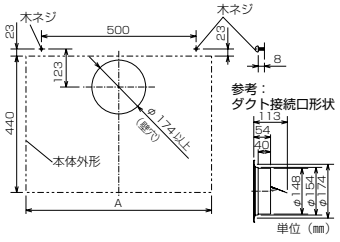
●壁取付けの場合



形　名	A	B
V-50RH$_2$	600	150
V-507RH$_2$・V-507RH$_2$-S	750	150
V-509RH$_2$	900	220







形　名	A
V-50RH$_2$	600
V-507RH$_2$・V-507RH$_2$-S	750
V-509RH$_2$	900

1 取付け前の準備

板張りの場合
- ●板厚20㎜以上の場合は直接壁に取付ける。
20㎜以下の場合は20㎜以上になるよう補強板を取付ける。

コンクリート、タイル、土壁の場合
- ●新築の場合はあらかじめ補強板を壁に埋め込む。
- ●既築の場合はコンクリートビスなどを利用するか補強板を固定して取付ける。

メモ
- ●取付金具を使用して壁取付けを行う場合、取付金具の厚み（約６㎜）の分だけ壁との間に隙間が生じます。

お願い
- ●新築・既築により準備が異なりますがいずれの場合も十分強度をもたせてください。
- ●IH クッキングヒーターを使用した場合、ダクト配管内で結露発生のおそれがあるため、屋外に向けて 1/100 以上の下り勾配をつけ、結露水が屋外に排出されるようにダクト配管してください。
（お願い事項のダクト工事の項を参照してください。）
また結露水漏れがないようにダクトの継ぎ目はシーリングを確実に行ってください。

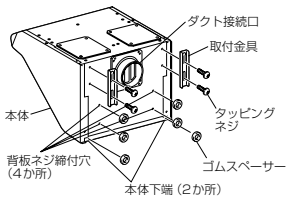
2 排気方向の選択

- ●この製品は排気方向が上部（左、右）および後部の３か所に排気方向が選択できるようになっているので、建物の構造などに合わせて排気方向を選択する。

3 穴あけ・木ネジ締め付け

- ●外形寸法図を参照し、壁・吊り戸棚等にダクト接続口を通す穴をあける。
（左図は後排気時の壁穴寸法を示す）
- ●壁取付用木ネジ（5.1×25）を左図のように８㎜程度、締め付けを残して締め付ける。

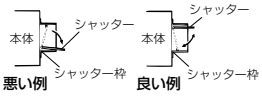
取付方法 つづき



4 取付金具・ゴムスペーサーの取付け

- 付属の取付金具を付属のタッピングネジ（各２本）で取付ける。
- 付属のゴムスペーサーのシールをはがし、本体背面に貼り付ける。
  - 背板ネジ締付穴４か所
  - 本体下端（壁に対し、本体が傾かない位置）２か所

後部排気の場合

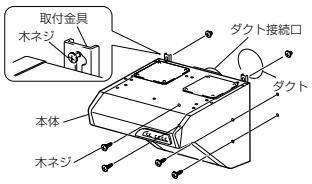


〈後部排気の場合〉

6 ダクト接続口の取付け を参照してダクト接続口を取付ける。

お願い

シャッターの開き方向は図のようにしてください。
逆方向に取付けますと、シャッターが開いたままになりますので、ご注意ください。



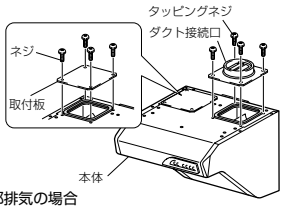
5 本体の取付け

- 木ネジに取付金具を引掛け、支えながら木ネジを締め付ける。

〈後部排気の場合〉

ダクト接続口をダクトに差し込み、木ネジに取付金具を引掛け支えながら木ネジを締め付ける。

- 本体内部から壁面に向けて、付属の木ネジ（φ4.1×20）で、図のように本体４か所を固定する。
- 水平に取付いていることを確認する。



6 ダクト接続口の取付け

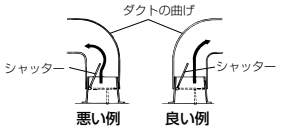
付属のタッピングネジ4個で付属のダクト接続口を使用する排気口に取付ける。

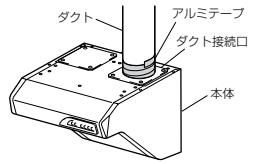
- 排気口を変更したい場合は、ネジで止めてある取付板のネジをはずして付替える。
- あらかじめ配管してあるダクトとダクト接続口とにずれがでた場合は、ダクト接続口の取付ネジをゆるめてずらし、ダクトと合わせる。

お願い

シャッターの開き方向とダクトの曲がりは図のようにしてください。
排気方向と逆にダクトの曲がりがありますと、排気性能が悪くなります。

上部排気の場合





- ダクト接続口とダクトの合わせ部より風漏れのないよう市販のアルミテープでテーピングする。

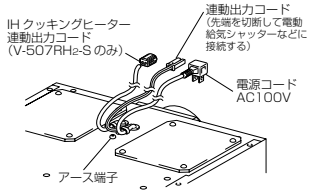
お願い

- ダクト配管の曲がりが多かったり、配管が長いと風漏れしやすくなるため、その際はダクト接続口の周囲にもテーピングしてください。
- ダクト接続口に無理な力を加えないでください。変形し、風漏れやシャッター動作不具合の原因になります。
- シャッターがダクトに接触しにように施工してください。異常音発生や製品性能が得られないことがあります。

7 電気工事

下記の要領で結線を行い、電源プラグをコンセントに差し込む。

※アース端子（本体天面）を使用して、必ずD種接地工事を実施してください。



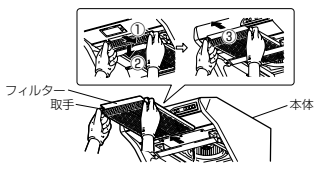
結線要領

- **電動給気シャッター・中間取付形電動シャッターを使用する場合**
  連動出力コードの先端を切断して、電動給気シャッター・中間取付形電動シャッターに接続する。

⚠警告

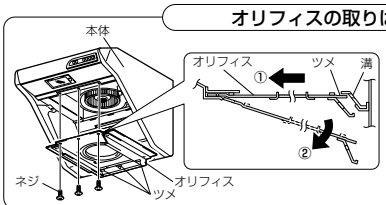
壁取付けした上で、吊りボルトを使用するか、または吊り戸棚に補強材を固定して本体を取付ける。
（落下によりけがの原因）

フィルターの取りはずし方法



フィルターの左右の取手をつまみ（①）、押し下げて（②）、手前へ引き抜く（③）。

オリフィスの取りはずし方法

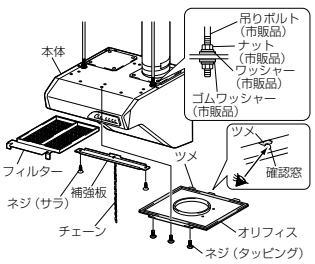


1 オリフィスのネジ３本を取りはずす。

2 オリフィスを矢印の方向にずらし（①）、ツメを溝から抜く。

3 ツメの側からオリフィスを手前に引いて（②）はずす。

●吊りボルト（市販品）を使用する場合



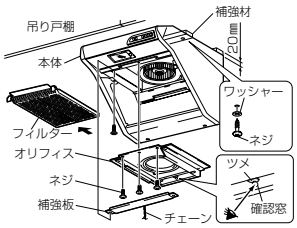
1 外形寸法図を参照して、吊りボルト穴位置にあらかじめ市販の吊りボルト（M8）２本を埋め込む。

2 フィルターをはずし、補強板およびオリフィスを固定しているネジ（補強板２本、オリフィス３本）をはずし、本体から補強板、オリフィスをはずす。（フィルター、オリフィスのはずし方については「フィルターの取りはずし方法」「オリフィスの取りはずし方法」をご覧ください。）

3 本体の吊りボルト穴に市販の吊りボルトを通し、ゴムワッシャー、ワッシャーで本体をはさみナットで固定する。
- 水平に取付いていることを確認する。

4 オリフィス、補強板、フィルターの取付けは、取りはずしと逆の順序で行う。
- オリフィスの取付けは、ツメの確認窓でツメが溝に入ったことを確認してください。
（ツメが溝に入っていないと、風漏れの原因になります）

●吊り戸棚などの下面に直接取付ける場合



お願い

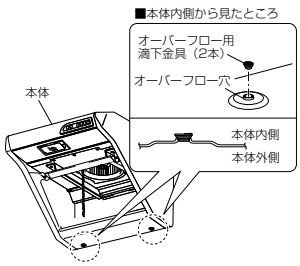
取付面の強度が弱い場合は、あらかじめ補強材を取付け十分強度をもたせてください。

1 フィルターをはずし、補強板およびオリフィスを固定しているネジ（補強板２本、オリフィス３本）をはずし、本体から補強板、オリフィスをはずす。（フィルター、オリフィスのはずし方については「フィルターの取りはずし方法」「オリフィスの取りはずし方法」をご覧ください。）

2 コード類の逃げ穴を、吊り戸棚などの底面にあけるか、20 ㎜以上の空間が取れるようにスペーサーを入れて、付属の木ネジ（4.1×20）とワッシャーで取付ける。

3 オリフィス、補強板、フィルターの取付けは、取りはずしと逆の順序で行う。
- オリフィスの取付けは、ツメの確認窓でツメが溝に入ったことを確認してください。
（ツメが溝に入っていないと、風漏れの原因になります）

8 オーバーフロー用滴下金具の取付け

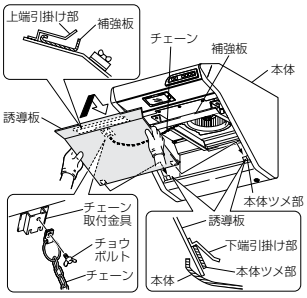


1 オーバーフロー穴に付属のオーバーフロー用滴下金具を取付ける。

9 誘導板の取付け

⚠警告

誘導板をチェーンで確実に固定してください
（落下によりけがの原因）



1 チェーンを誘導板のチェーン取付金具に付属のチョウボルトにて締め付ける。

2 誘導板の左右の端を持ち、誘導板の下端引掛け部を本体ツメ部にはめ込み、誘導板の上端引掛け部を補強板にはめ込む。

3 誘導板を前後に押してはずれないことを確認する。

取付工事後の確認

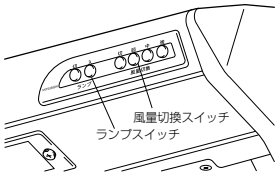
■取付工事が終わりましたら、次の確認をしてください。

⚠警告

ランプを点検する際は必ず電源プラグをコンセントから抜くか、分電盤ブレーカを切る。
（感電の原因）

1. 本体、誘導板はしっかりと固定されていますか？ランプはゆるんでいませんか？
2. D種接地工事は実施されていますか？

■電源プラグをコンセントに差し込み、次の確認をしてください。



1 電源プラグはしっかり差し込まれていますか？

2 ランプスイッチを押すとランプが点灯しますか？

3 風量切換スイッチを押して風量が切換わりますか？

4 それぞれの風量で運転した場合、振動や異常音がありませんか？

■試運転後、天井および壁などに内装用接着剤や塗料が使用される場合がありますので、本体の保護のために保護材で覆ってください。

三菱電機株式会社
中津川製作所 〒508−8666 岐阜県中津川市駒場町１番３号 電話 0573−66−2111

この説明書は、再生紙を使用しています。